

◎景気ウォッチャー調査[2019年1月]

2019年1月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を0.6ポイント下回る46.3となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「寒暖差が激しく、秋冬物商材が安くなっても客は購入しない。12月末にあった近隣百貨店の閉店セールに客を奪われ、当店の売上はかなり響いている。特に衣料品に関しては安い方に客足は流れる傾向にあるが、その一方で、バレンタイン商戦が始まり、高額なチョコレートの動きが順調である。」(百貨店)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.2ポイント下回る44.3となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「自動車、建設、建設産業機械など各分野の需要が好調で鋼材の加工が忙しく、災害復旧工事などもあって鋼材の需要は底堅い状況である。」(鉄鋼業)、「各事業体での新春の販売促進案件やイベント等の開催告知に関する内容で上向きに推移している。」(広告代理店)等の理由から、「良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.7ポイント上回る50.7となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「求職者の動きに変化はなく、景気回復には人手不足の解消が必要である。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「変わらない」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント上回る51.5となった。

	1月	12月	前月差
合計	46.3	46.9	-0.6
家計動向関連	44.3	45.5	-1.2
企業動向関連	50.7	50.0	0.7
雇用関連 (参考値)	51.5	50.0	1.5

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.3ポイント上回る49.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「受験、卒入学、異動、転居など、人の移動が活発な季節になり、晴れの日も増えるので、それぞれの社会行事、学校行事、地域行事に対応した販売促進を細かく打つことで売上は増加するとともに、4～5月は改元のプラス効果に期待が持てる。しかし、人材の入れ替わりの端境期でもあるので、人材確保のための人件費の上昇で経営的には苦戦が続く。」(一般レストラン)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.7ポイント上回る49.8となった。

企業動向関連は、「良くなる」「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「米中貿易摩擦が世界景気のパラダイムシフトとなっていた中国の景気後退に徐々に影響し、取引先が生産計画を下方修正する動きが出てくる。」(化学工業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.1ポイント下回る47.1となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「既存社員のみでの課題解決が困難な場合、外部から問題解決のできる人材を採用するケースが見受けられる。従来は人件費の問題で既存社員の知恵に頼り、余剰人員を抱えることを避けてきたが、現状打破と業績拡大を目指して積極的な採用活動が継続する。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント上回る54.4となった。

	1月	12月	前月差
合計	49.7	49.4	0.3
家計動向関連	49.8	48.1	1.7
企業動向関連	47.1	52.2	-5.1
雇用関連 (参考値)	54.4	52.9	1.5